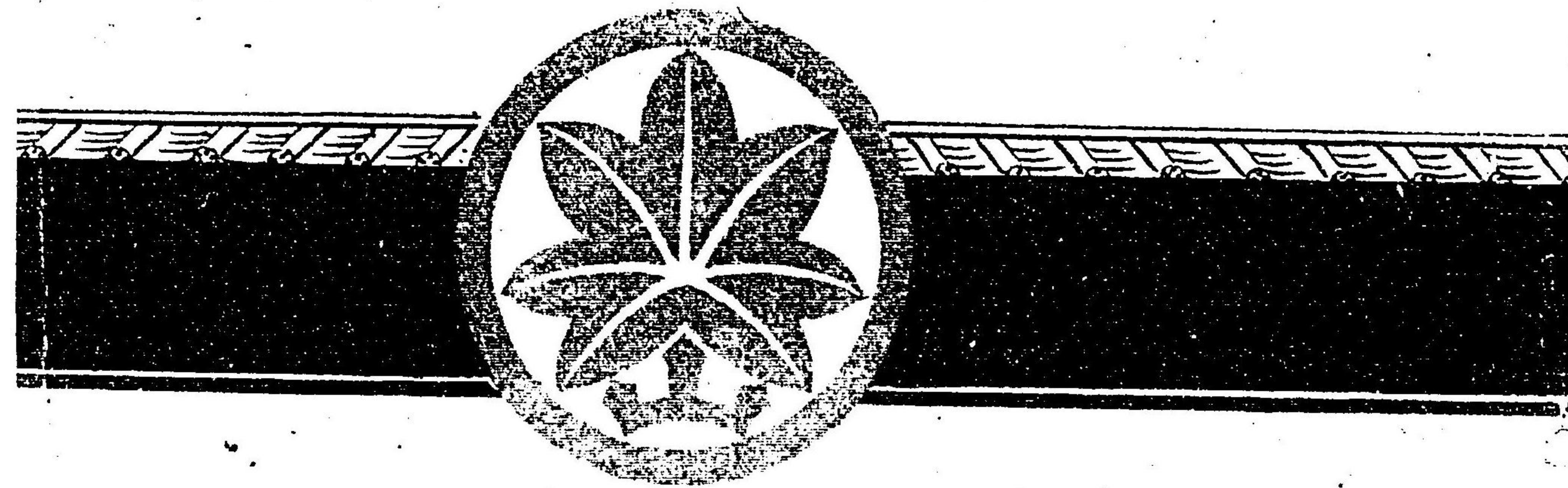


帖真寔寺園策山策亦



*KIOTO HONKOKUJI*

25-823

二王門

出陣門

藥醫門

本堂

立像堂

清正公拜殿

清正公本殿

清正公夫人息女の廟

納骨堂

祖師堂

番神社

經藏玉房社

鬼子母神堂

鐘堂と毘沙門堂

戦利品

生影堂

玄關と庫裏

本堂上段

書院

書院上段

人丸社

奥庭

燈籠と水鉢

勤持院の庭

小野寺氏妻墓

清正公出陣像

清正公馬印旗

清正公手箒筒

清正公軍配

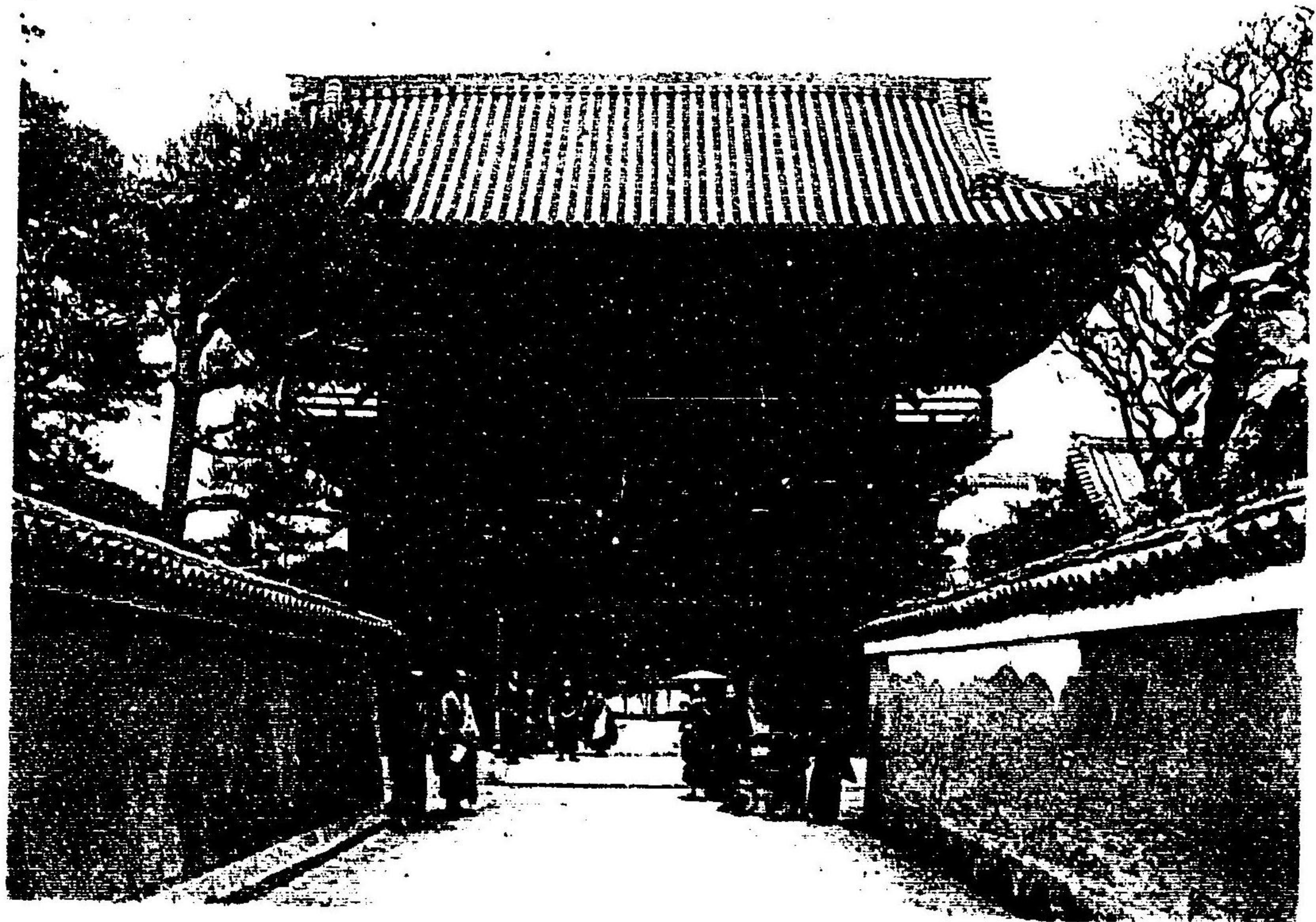
狛犬

明治  
40 7 2  
内表

## 大本山本因寺略縁記

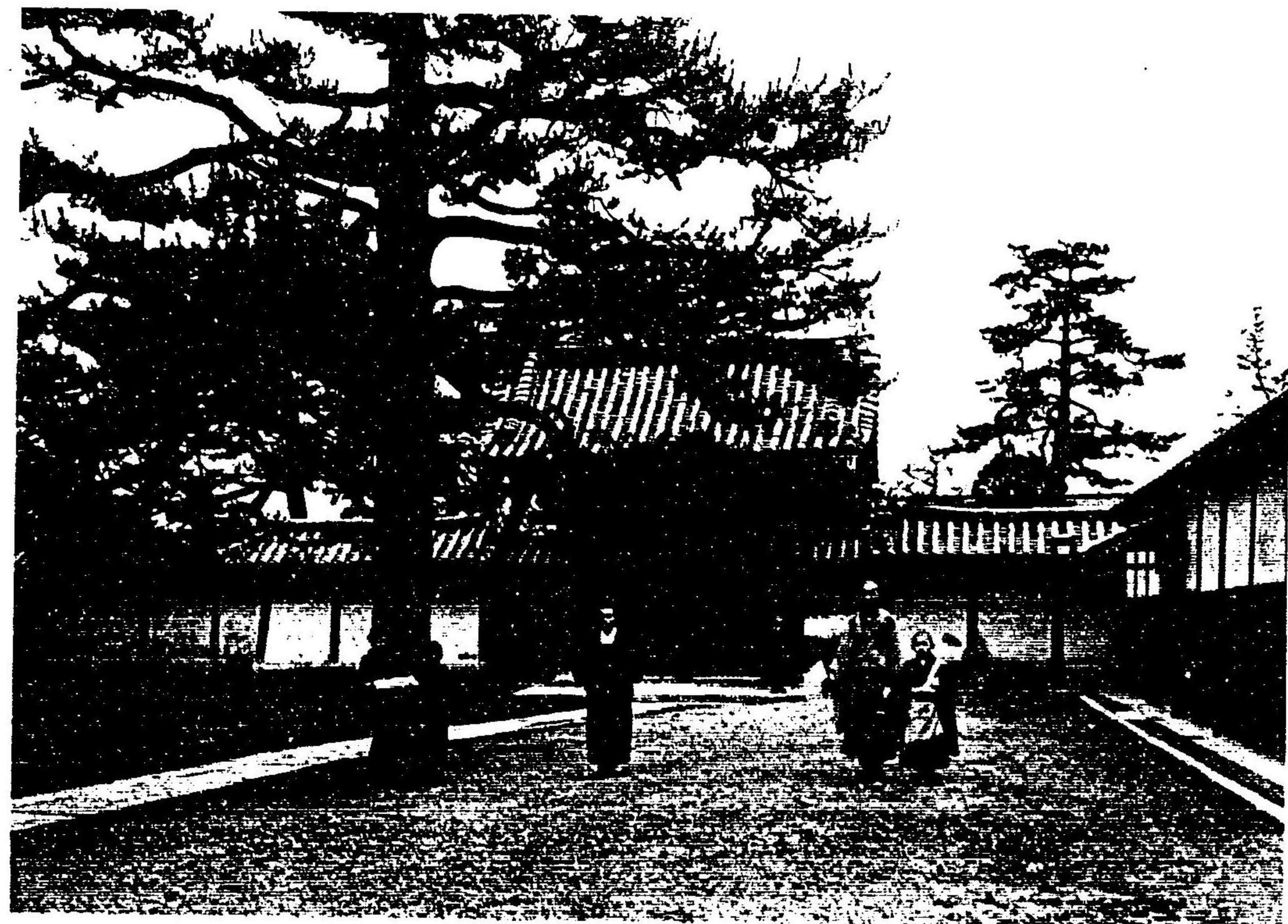
建長五年四月廿八日開祖日蓮房州清澄寺に於て始て法華妙宗を弘宣し  
全年八月相州鎌倉に出て名越松葉谷に伽藍を經營し法華堂と號す是れ  
我宗發軔の道場也其後十一年を経て弘長三年五月豆州伊東の海中より  
出現せる釋迦佛を安置し日蓮自ら大光山本因寺と稱す是れ即ち本宗の  
山號寺號の最初なり開祖是に住すること十又九年文永十一年五月弟子  
日朝に本因寺を附屬して甲州身延山に隱栖し弘安五年九月武州池上に  
赴き十月三日日朝へ正嫡付法の証とし立像釋尊一休安國論一卷赦免狀  
三通に讓狀を添て授與す是を當寺の三箇靈寶と稱す而して十三日開祖  
は池上に於て入滅せらる第二祖日朝の代乾元元年將軍 久明親王の夫  
人懷妊の時安産を當寺の立像釋尊に祈り靈驗虛しからず一男を擧ぐ守  
邦親王是なり因て當寺を祈願所として方四丁の寺地を寄附せらる弘安  
元年五月 後宇多帝日朝に倫旨を賜ふ第三祖日印文保二年鎌倉殿中に  
於て諸宗と對論し大に法運を啓く元應元年二月 後醍醐帝より宣旨を  
賜ひ又第四祖日靜の代嘉暦三年十一月全帝より 勅願所及び宗號の倫  
旨を賜て元徳元年日靜を三位大僧都に任せられたり貞和元年三月 光  
嚴帝特に詔を降し當寺を鎌倉より京都に移され永世不易の寺地として  
鎌倉舊地の例により六條揚梅に東西二丁南北六丁全く領すべし倫旨を  
賜はる因て遠く鎌倉より今の地に移し伽藍を建立す然るに天文五年七  
月天明八年正月兩度の大火に類焼し一山悉く烏有に版すされて直に再

建し天皇代々 孝明帝に至る迄の御倫旨に基き四海泰平寶祚延長を祈願し年々元旦に参内して祈禱御札を献上する舊例なり又第十七代日桓は今出川家の公達により代々其猶子たらしめれば任職せざるの慣例なり而して將軍家代々の教書中貞治元年四月將軍義隆ノ書に云く當寺爲勅願所早奉祈帝都還幸有驗之法力殊以可爲神妙とあり寺領朱印は豊公より天正十三年十一月百七十七石全可寺納云々徳川氏代々も同じ當山境内の東北隅に柿本社あり傳へ云ふ往昔紀貫之始て勸請すと建仁年中藤原俊成卿の再興あり 後陽成帝柿本人丸の神統を宸筆し下賜せらる是れ明治六年境内に官道を開きし際此由緒にて柿本町と稱す當寺創立建長五年より明治四十二年まで六百五十七年遷都貞和元年より五百六十五年なり茲に曆朝の倫旨教書住職の官位等は之を略す耳



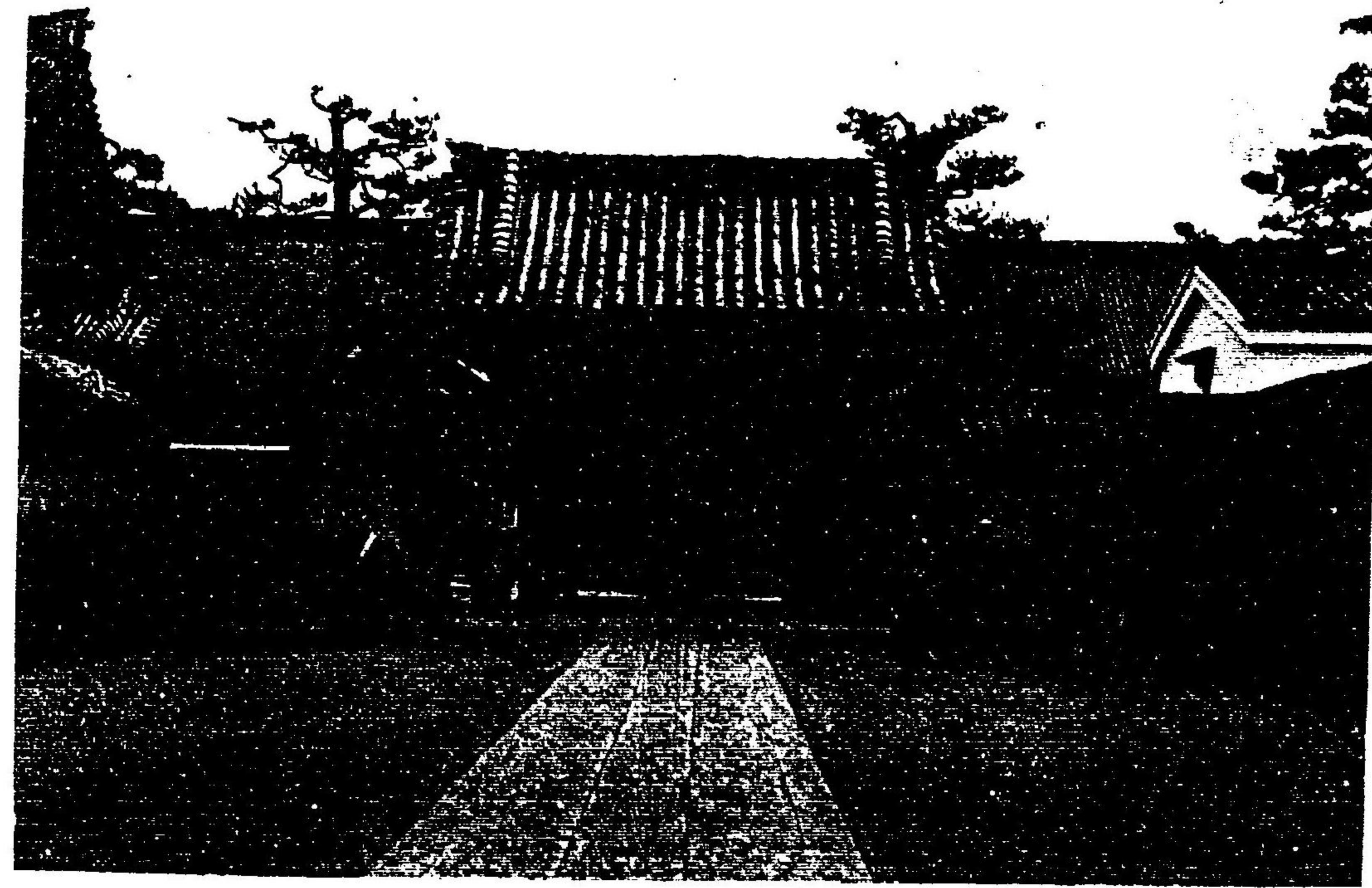
NIOMON

門 王 二



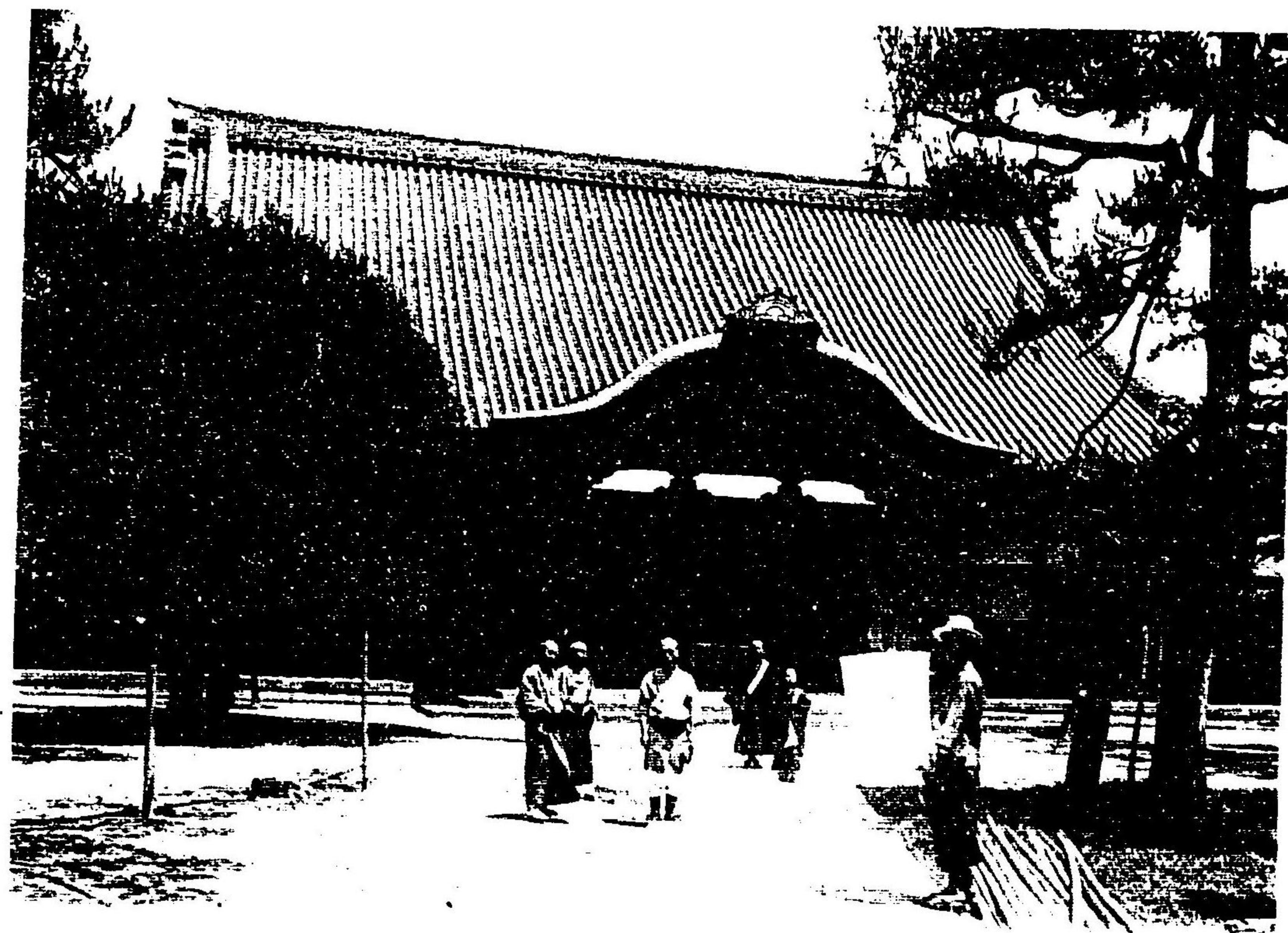
SHUTSUJINMON

門陣出



YAKUIMON

門 穴 塔



HONDO

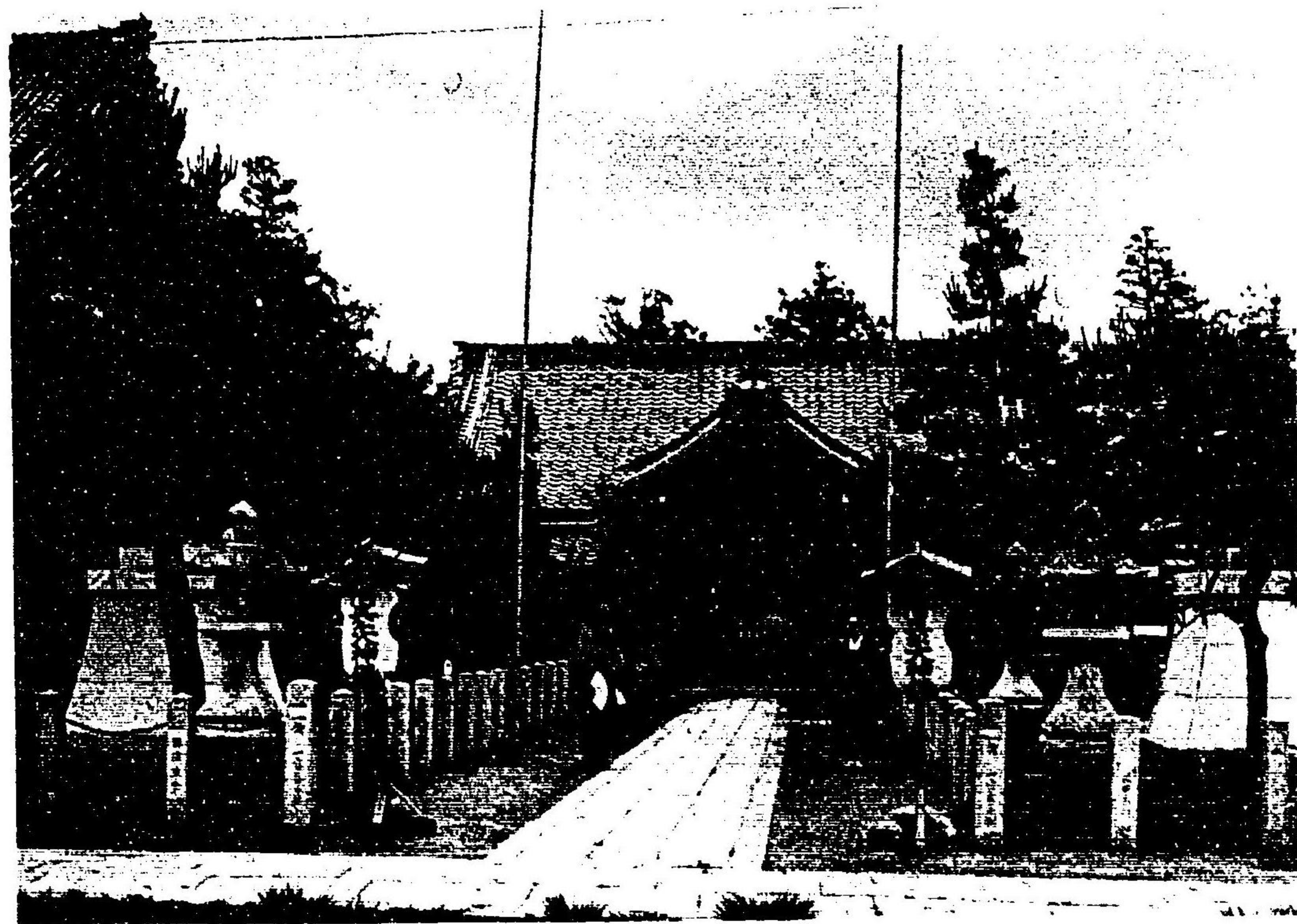
堂本



RIUZODO

立 儀 堂





KIYOMASA HAIDEN

殿 邦 正 清



KIYOMASA HONDEN AND RUKANHI

清正木殿上殿感感



KIYOMASA FUJIN AND SOKUZYO

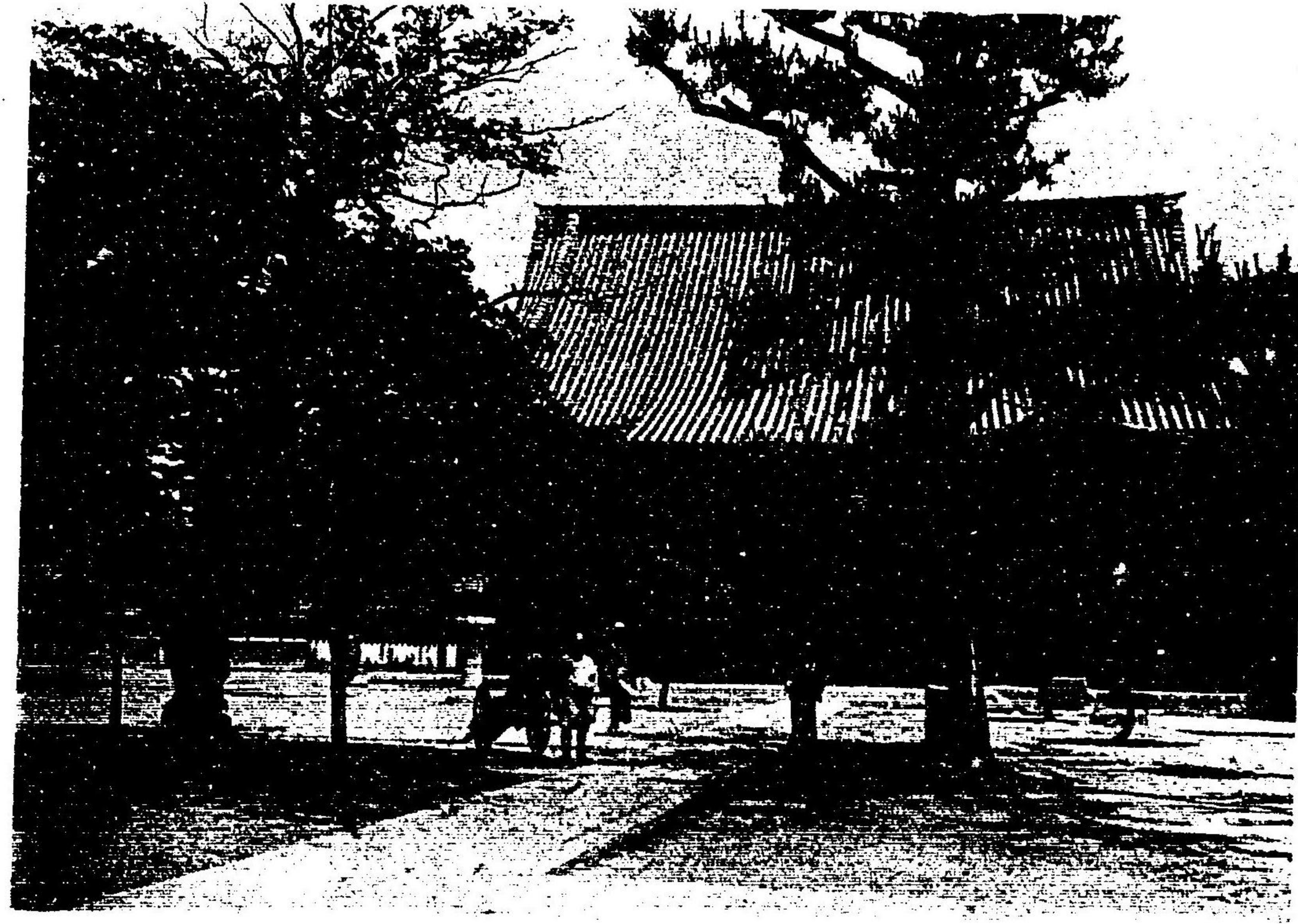
清正夫人息女ノ廟



NOKOTSUDO

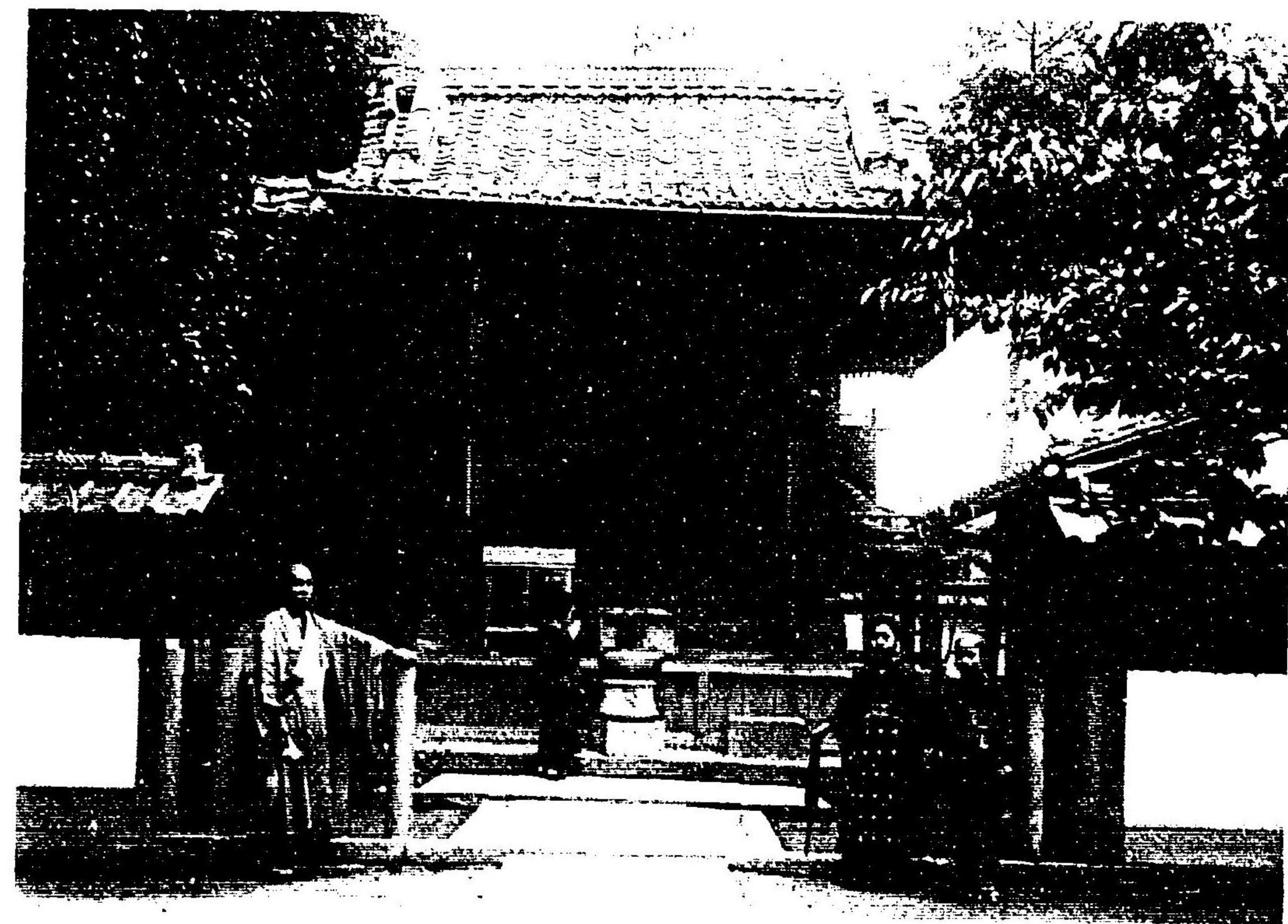
室竹納





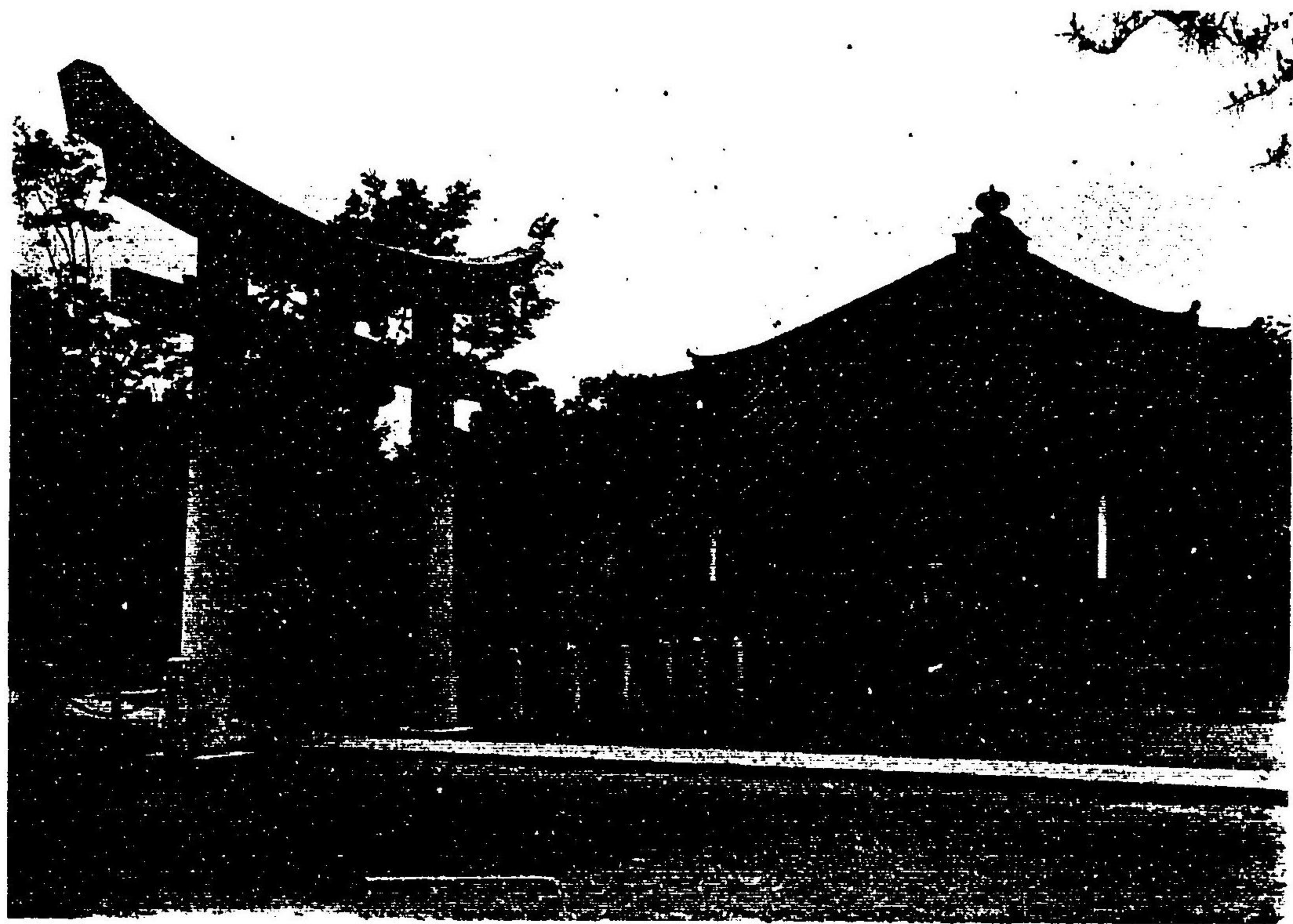
SOSHIDO

空印館



BANJINSHA

社 神 宗



KYOTO TAMAFUSAINARI

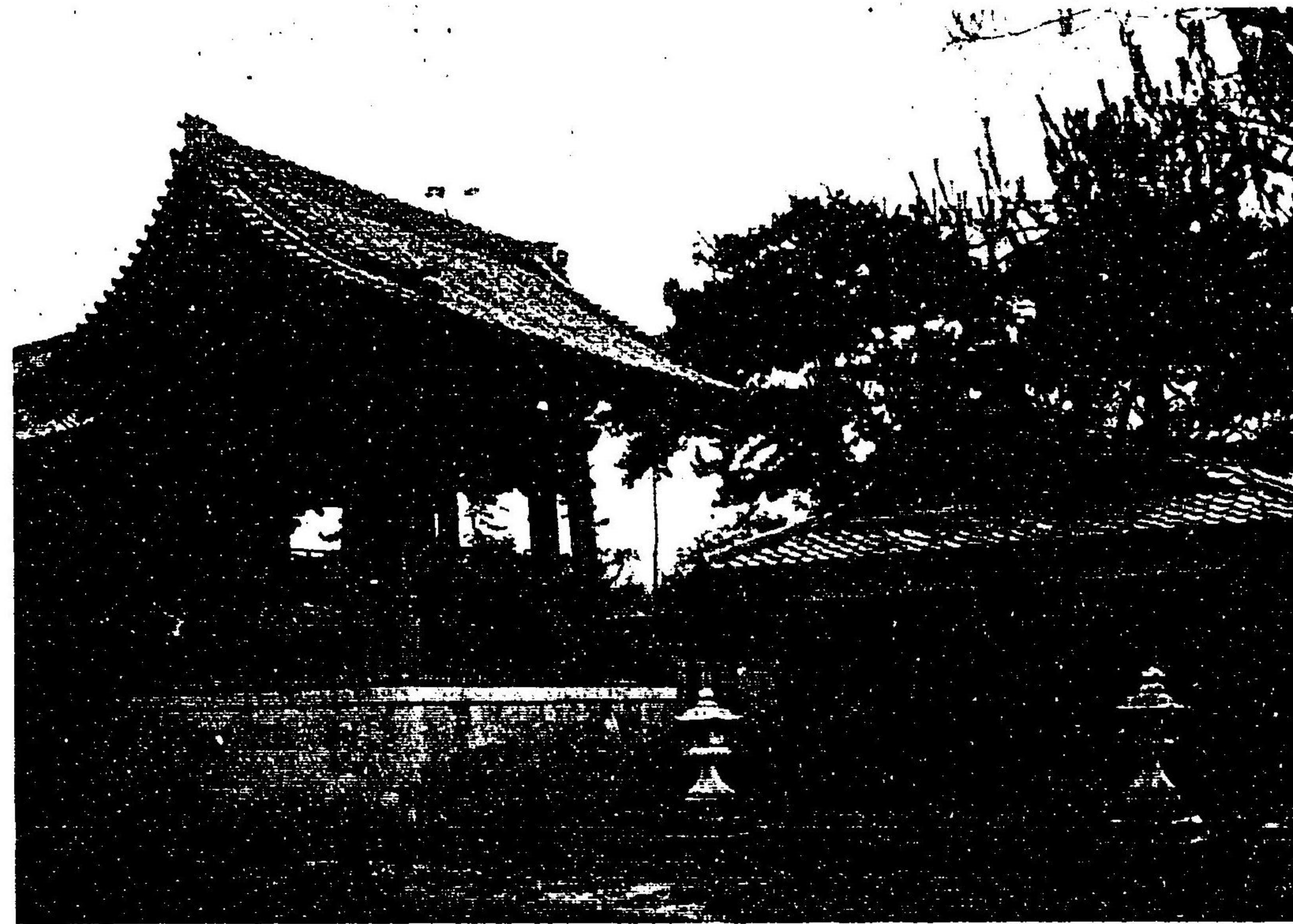
社乃玉卜藏經



KISHIOJINDO

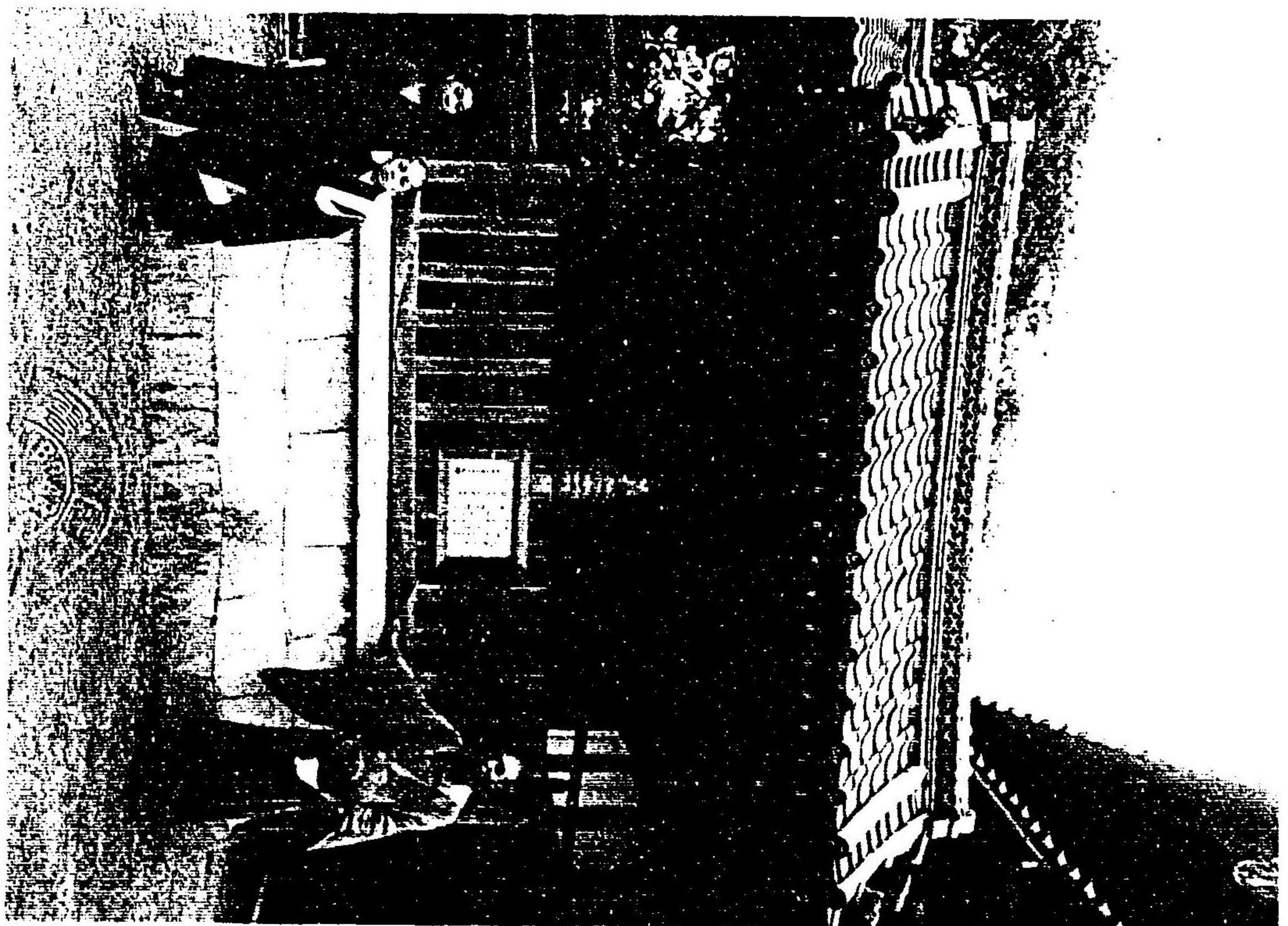
堂神母子鬼





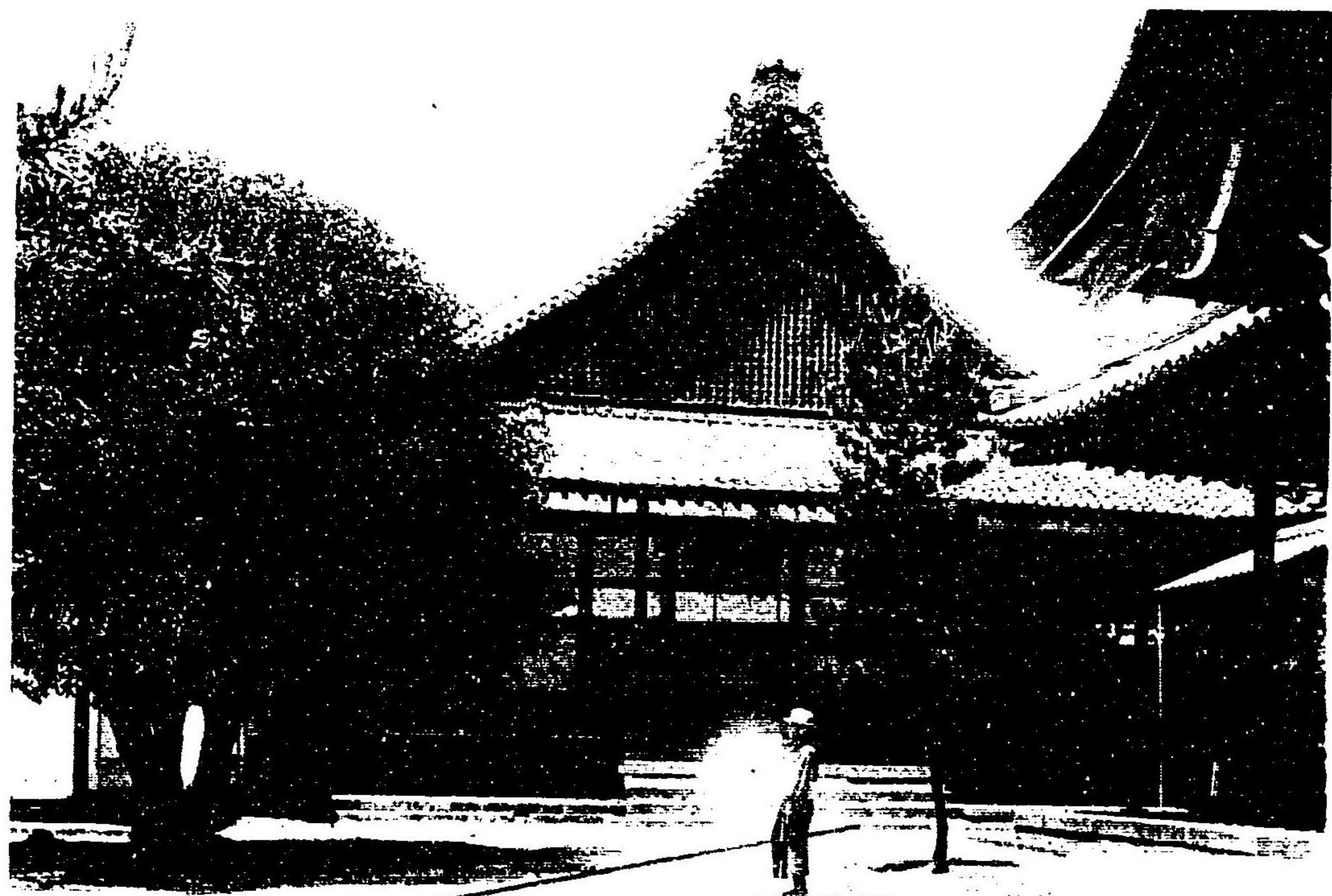
KANEDO BISHAMONDO

鐘門沙見下堂鐘



SENRIHIN

品利觀家日



SHOMIEDO

堂影生



GENKAN AND KURI

玄 關 下 庫 裏



HONDO JODAN

本堂上段間



SHOIN

院書



SHOIN JODAN

書院上段間



HITOMARO SHA

社 丸 人





OKU NIWA

園庭奥



HINAGATA TORO AND UTATANE TYOUBATI 鉢水手ノ子、タウト籠燈形籠

25

23



KANJIN NIWA

庭ノ好即正清院持勤



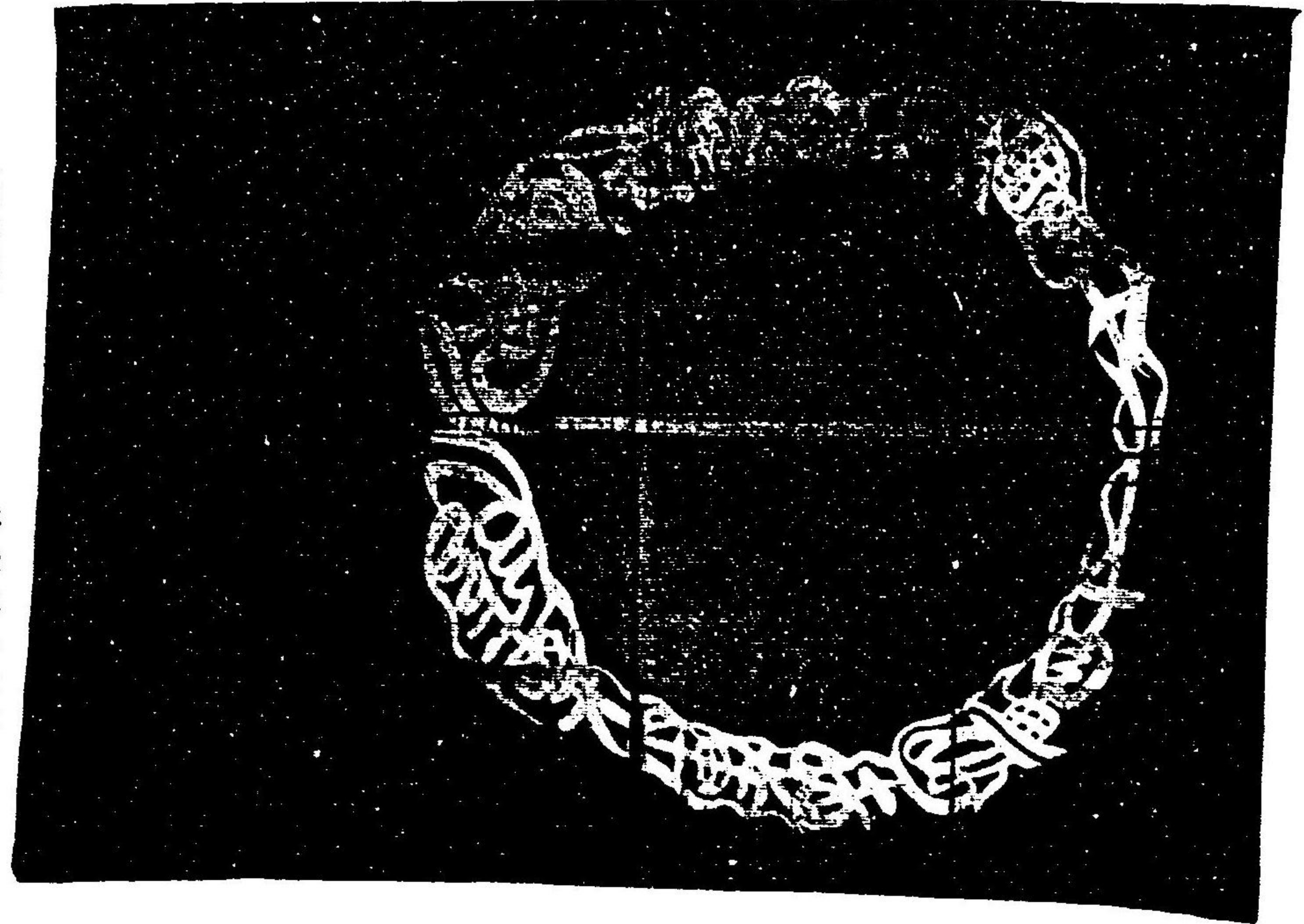
ONODERA HAKA

小野十長墓

KIYOMASA SHUTSUZIN ZO

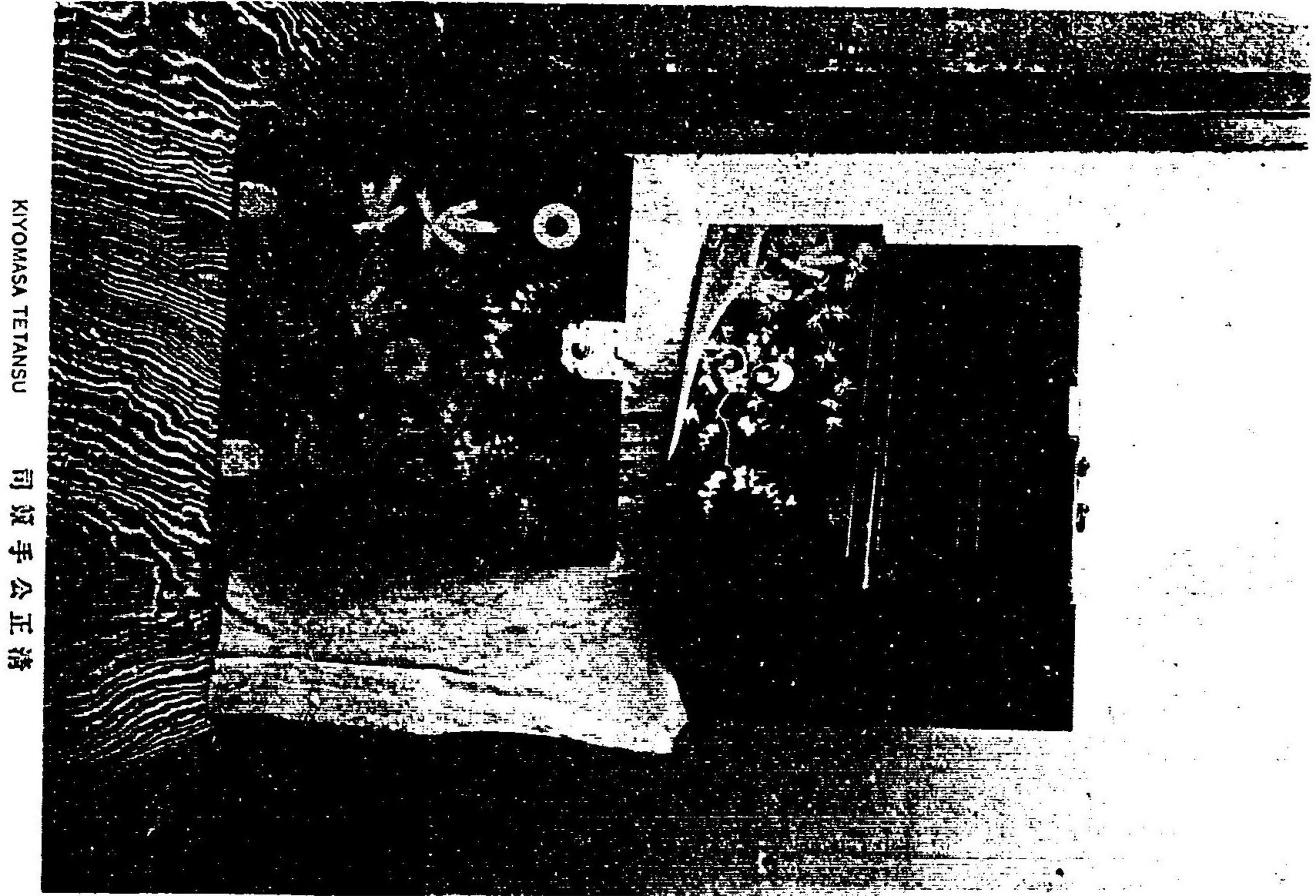
像陣出公正清



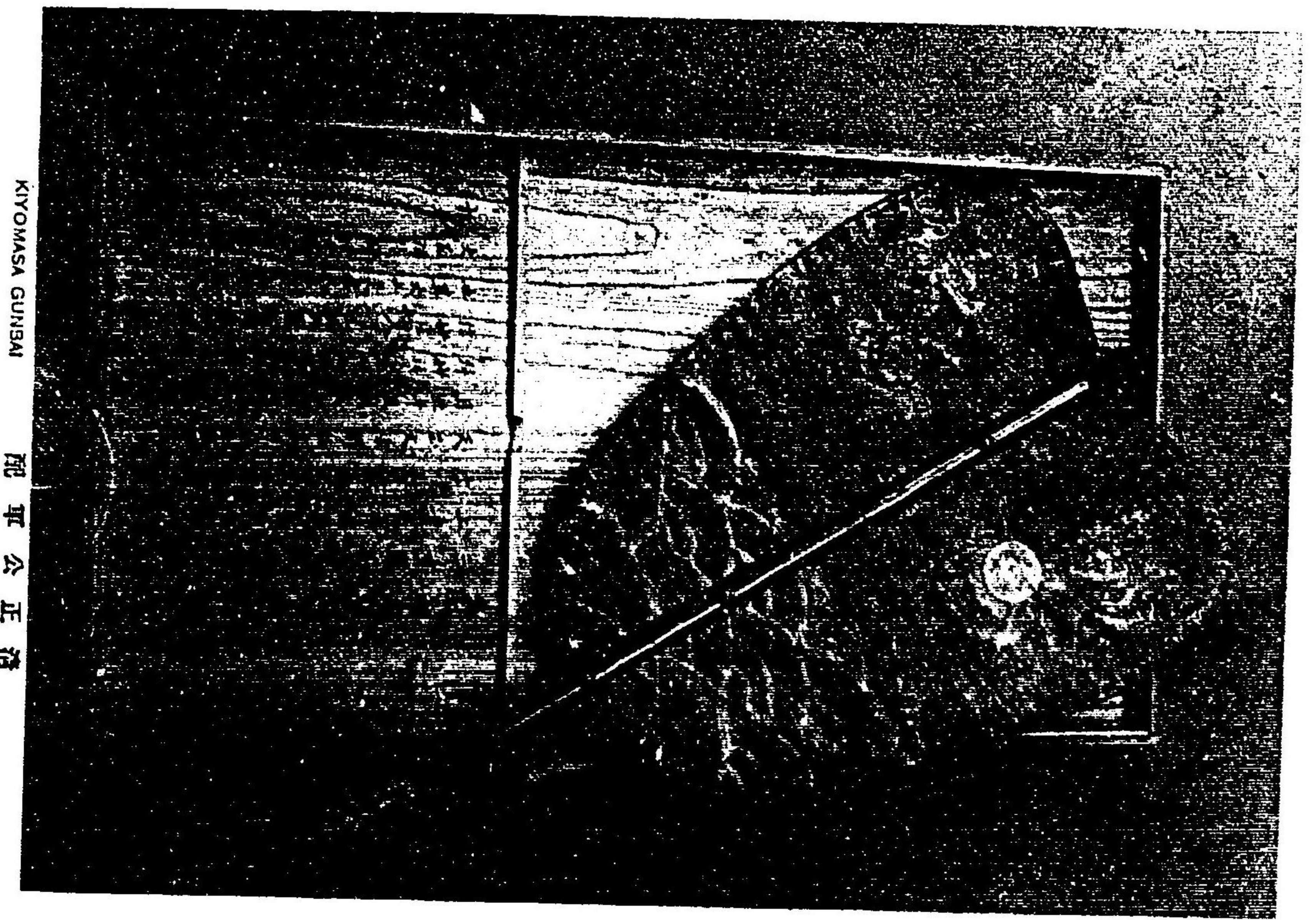


KIYOMASA YAKIJIRUSHI

旗印馬公正清



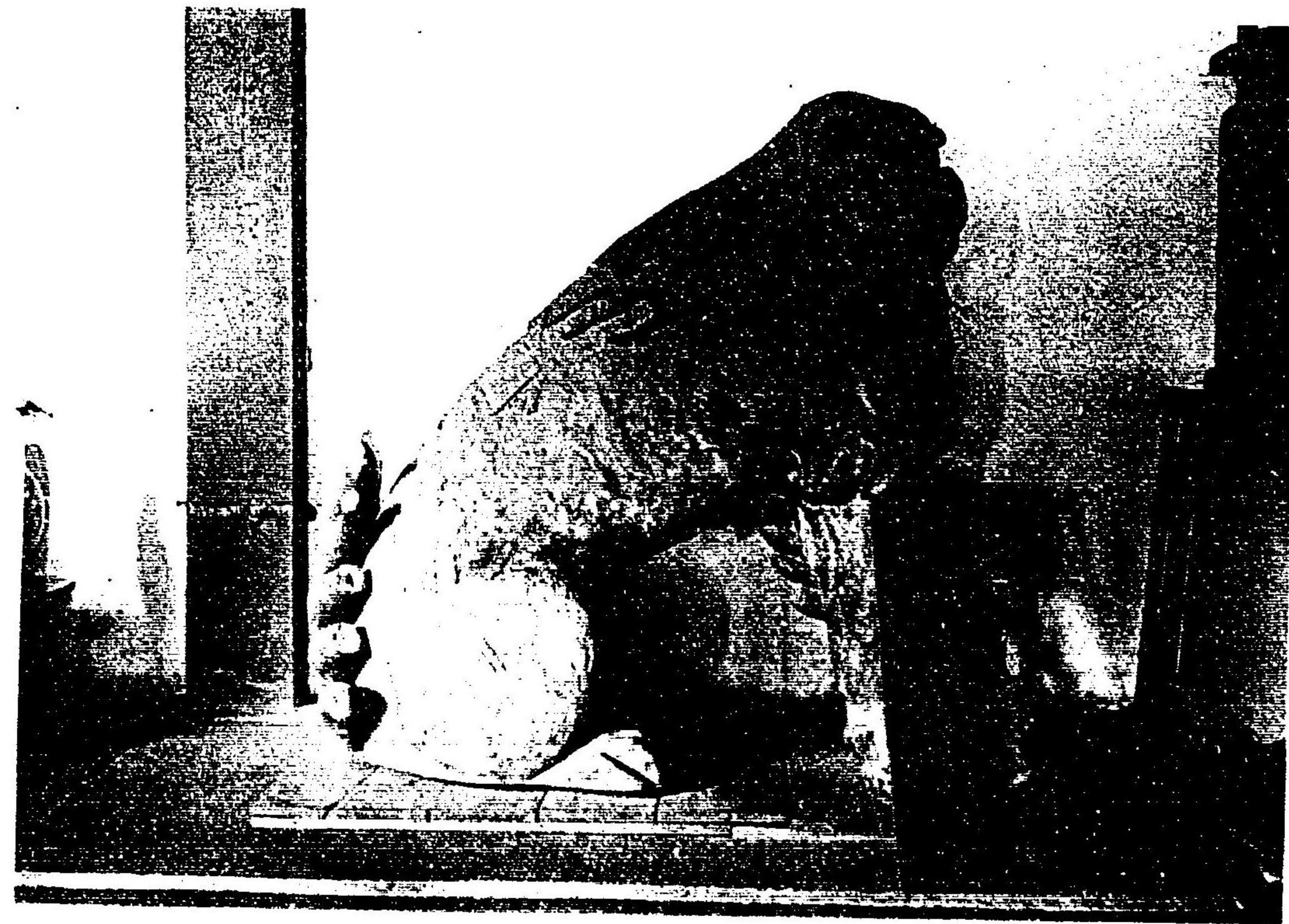
KIYOMASA TEIANSU 司 奴 手 公 正 清



KYOMASA GUNBAI 配車公正簿

8





KIYOMASA KOMAINU

犬狛附寄正清

## 大本山本因寺寫眞略説

二王門鐘堂と毘沙門堂

共天に明八年大火後の建築にして二王門に

は密迹執兩金剛神を奉安し毘沙門堂には天文法亂燒殘の古木を以て

彫刻したる多門天及び石像の妙見大士大黒天七面大明神等を安置す

出陣門

境内の中央にある朱塗の門なり清正公征韓出陣の時此門より

り出られしを以ての故に此名あり當寺大法會か又例年廿四日清正公

御縁日の外平素には開かざる故に俗に不明の門と云ふ

藥醫門

本堂の正面にあり玄關庫裏等に接近するを以て俗に臺所門

又方丈門と稱す

本堂

元の大客殿にして江州安土城より移せしが惜ひ哉天明の大火

に罹り後再建せんものなり正面なる妙法華院の額は水戸黄門光圀公

の筆あり

立像堂

近年まで新普院附近にありしが明治十五年頃今の所に移す

是れ宗門無比の靈寶聖祖御一代の隨身佛勅賜開淨第一立像釋迦牟尼

佛を奉安せり天井の龍は片駒の筆にして有名なり

清正公本殿と拜殿

共に近年の改築なりと清正公の靈廟なれば神威

儼然として日夜賽者群集織るが如し右側の自然石なる記念碑は本年

三百年祭に際し常市の力士草風氏發起本願にて建設せしものにして

靈威記念碑と稱し頗る壯大なるものあり

清正公夫人と息女の廟

清正公三十三年忌の際全公の御息女なる紀

伊大納言頼宣卿夫人瑤林院の建立にして自らも逆修にて共に建立さ

れしものなり

納骨堂

本年清正公三百年祭に際し神戸市中の信者の丹誠により建

築せしものにて未だ工事中なり

祖師堂 聖祖及日期日印日替日傳の五祖を安置す就中聖祖の御腹籠には聖祖の御肉齒二枚を藏せりと日期上人像は眼病守護の靈驗あらたなり

番神社 明正天皇の勅額ありて清正公征韓の役凱の際寄附せられしが現今のものは天明祝融後の再築なり

一切経藏と玉房稻荷社 元足利義政公の寄附にて宋板の一切経を藏せしが天文法亂に散佚し現今のものは清正公の寄附にて中の一切経は後水尾天皇の皇后東福門院ノ御寄進なり玉房稻荷は鎌倉以來當山の鎮守にして靈驗多し

鬼子母神堂 日期上人御作の鬼子母神十羅刹女を奉安す天文法亂に火中不焼なりとし今も火難守護として靈驗多し

戦利品陳列場 本堂と立像堂の中央にありて明治卅七八年日露戦役の戦利品を陸軍省より下附せられたる三十冊知の大砲彈を始とし銃銃等二十余品を陳列す

生影堂 弘安元年日期上人の建立よして 後宇多帝宣旨により安國院と號し日期上人自刻の聖祖の像を安置す天文天明兩度の回祿に罹りしも建築構造は建立當時の鎌倉時代の古風あり  
玄關と庫裏 共に天明以後の建築されども宏壯偉大なること他に比類少し

本堂上段の間 床の間及び襖の孔門十哲の畫は狩野法眼永徳の筆にして内地人及び外國人の美術家の賞賛せざるものなし又襖の背面には帝室技藝員岸竹堂の筆なる竹林七賢の圖なり右方の寶塔は水戸黄門光圀公寄附なる法華懺法の塔にして例年十一月十四日には全公及び母堂菩提の爲に此塔を寶前に飾り嚴肅なる懺法會を修す  
書院及上段 近代の建築なれども元鎌倉より迂都の頃將軍足利尊氏

公の建立にて觀柳亭と名けられしものなり全公の歌に  
行く水の柳によごむねを問へばいつか昔の人麿の塚  
此類天文法亂に散佚し今は久邇官朝彦親王の染筆ある大慈爲重の額を掲ぐ上段の床には狩埜俊女の筆なる宮中舞樂上覽の圖を常掛とし皇族及び貴賓の休室と爲す

人麿社 卷首に記する如く昔し紀貫之始て祀りしが後大水に漂流せしを建仁年中藤原俊成卿再興す天正年中 後陽成天皇神號を宸筆ありて勅額を賜ふ  
奥庭及び燈籠手水鉢 源義經の堀川御所時代の庭園にして丘陵池塘石橋岩石の配置等頗る雅致を極め北隅の丘上には喬樹高く蒼蔚として其中に前記の人丸社あり又雛形燈籠及びうたゝねの手水鉢も共に堀川御所當時の遺物なりとぞ

勤持院の庭園 方丈門前なる加藤家宿院と稱す元西大坊大法寺と云ふ清正公御好の庭にして近衛公も賞して連珠不斷園と號せられたり左方の丘上に福大神社あり紀貫之を祀る右方の古塔は骨董雜誌に云く借正遍照が寛平二年に山科花山寺に建しものにて天正年中清正公其古雅あるを愛し此庭内に移されたる殆んど一千年の星霜を経たる古石塔なり

小野寺氏妻墓 境外岩上五條北へ入る了獄院の跡にあり忠臣藏四十七士の内に有名なる小野寺十内の妻丹女の墓にして近年大に洒掃を加へ名家富岡鉄齋先生及び加藤某等深く盡力せられたり

清正公出陣の像 同公甲冑出陣の肖像にして當寺二十三代日蓮上人の御代に畫伯紀廣成謹で揮毫したるものなり  
馬印旗手軍司軍配 三品共に清正公軍陣中に用ひられし遺物にして當寺の寶庫に秘藏せり去る明治三十一年十一月當市の美術館に於て

(四)  
皇太子殿下の上覧に供し奉りて府知事より謝状を添へられたる逸品なり

狛犬 立像堂内にあり元三十番神社へ清正公の寄附されしものにて多年の風雨に遇ひ所々缺損せしを以て該社に新造のもの飾りて此像を此堂内に入れて風雨浸蝕の害を防きたりしものなり彫刻巧妙に古雅にして奇異の觀あり

編者 菊堂 藏

明治四十二年六月廿五日印刷  
明治四十二年六月廿八日發行

定價 金四拾錢

不許複製

發行者 長尾 日 憲

京都府葛野郡上嵯峨村常寂寺住職

全 埴 谷 詮 旭

京都市柿本町瑞雲院住職

編輯者 太 田 菊 堂

京都市柿本町本栖舎主

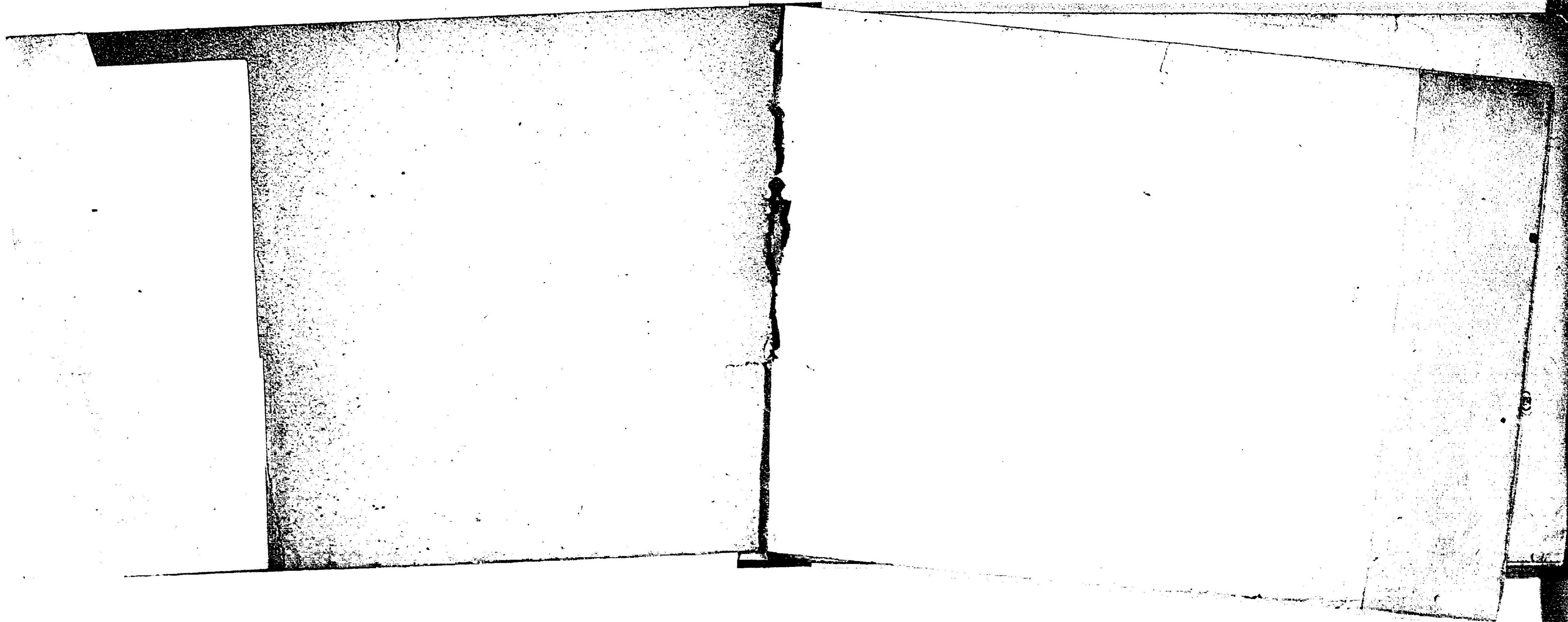
印刷者 堤 彌 太 郎

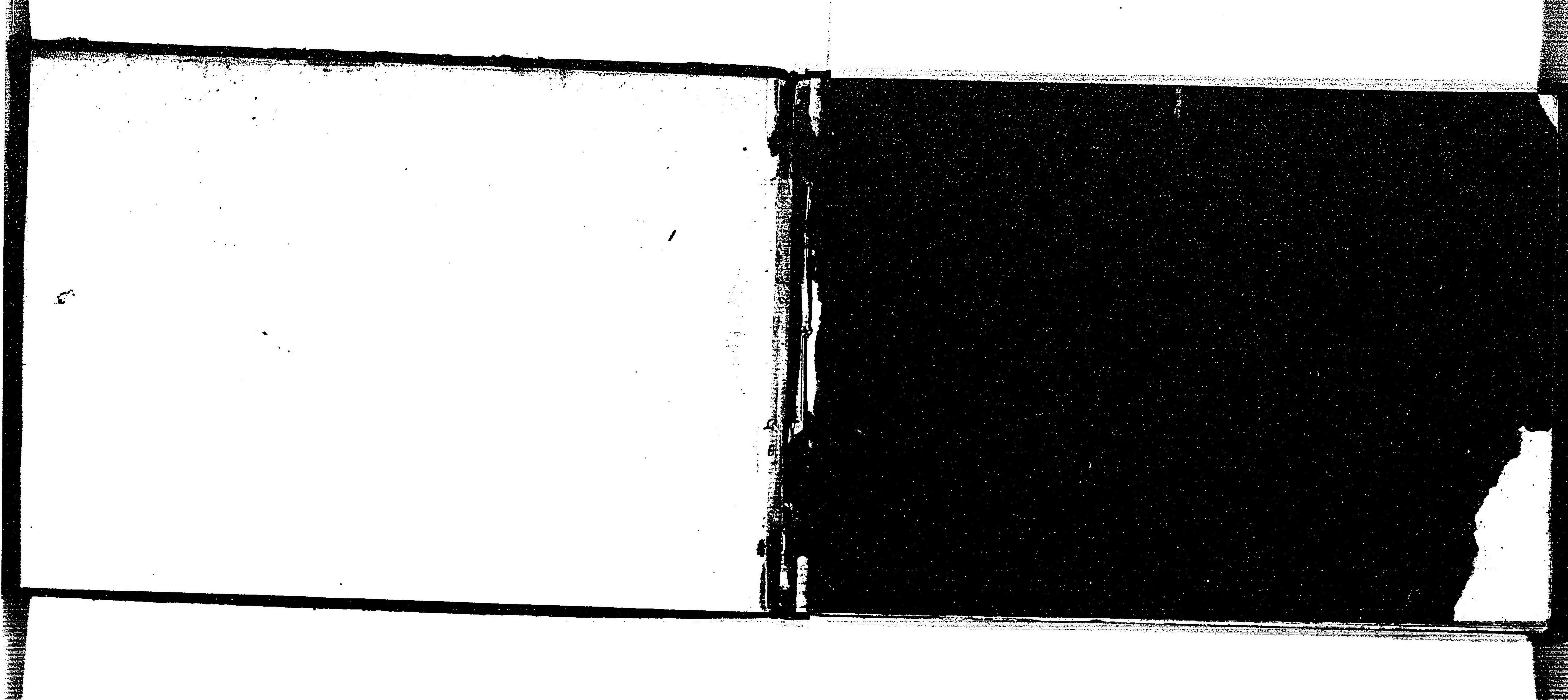
京都市大宮通八條上ル大黒町七番戸

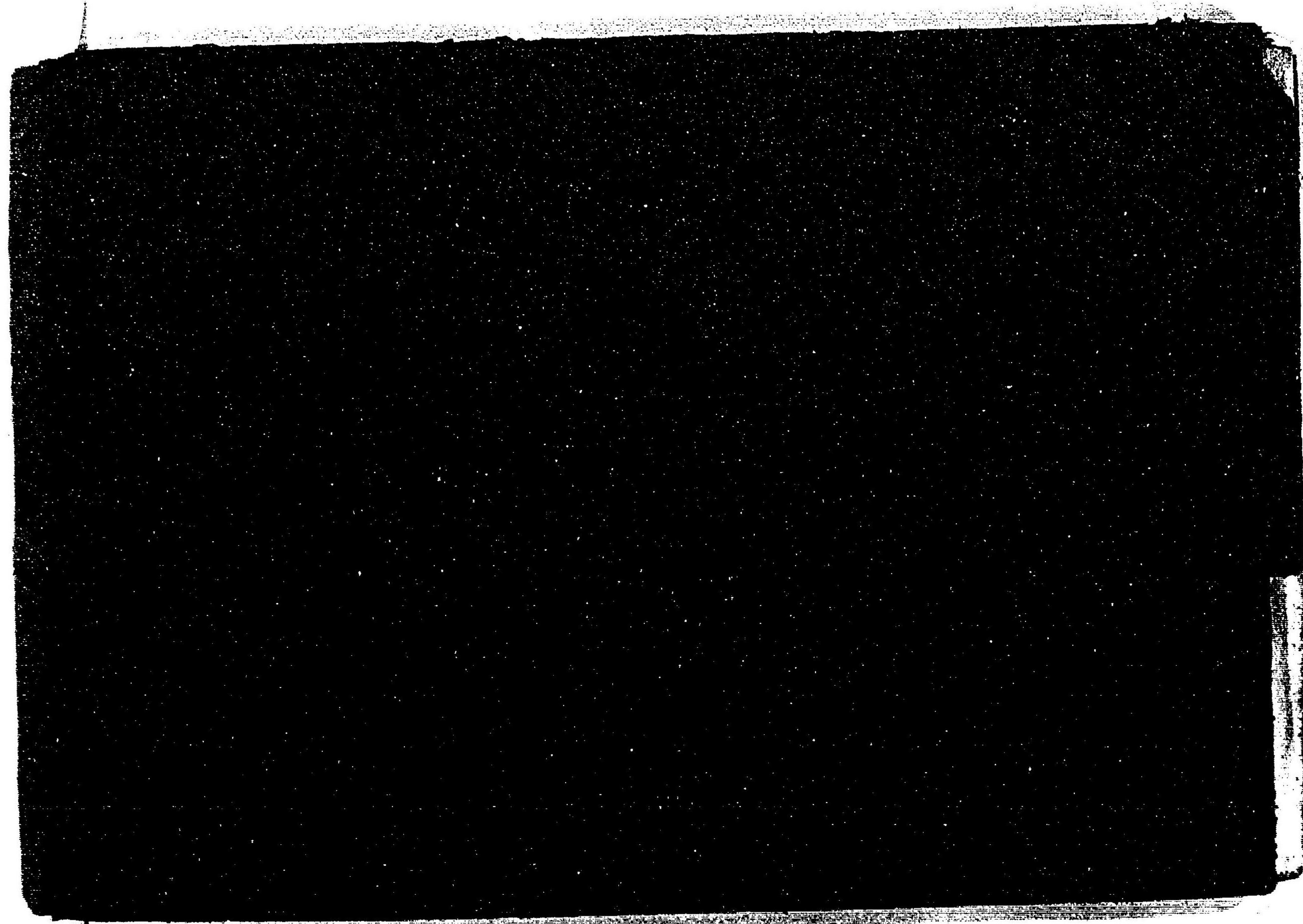
印刷所 堤合資會社印刷部

京都市大宮通八條上ル大黒町七番戸

25  
823







大本山  
本圀寺寫眞  
略記

020002-000-6

25-823

大本山本圀寺略緣記

太田 菊堂/編

- M42.6

ABH-0166





